

発刊に当たって

知識基盤社会到来とともに、科学技術に関する世界的な競争がこれまで以上に激化し、我が国においても次代を担う科学技術系人材の育成が不可欠となっています。また、科学技術の成果が社会の隅々にまで活用されている今日、国民一人一人の科学に関する基礎的素養の向上が極めて重要となっています。これらのことから、科学技術の土台となる理数教育の果たすべき役割は重要であり、その充実を図ることが喫緊の課題となっています。

このような課題を踏まえ、今次の学習指導要領理科では、観察・実験やレポートの作成、論述、自然体験などの学習活動の充実を図る観点から授業時数を増やしたり、小・中・高等学校の学習の円滑な接続などを図る観点から、指導内容の系統性を重視したりするなどの改訂を行い、現在、本指導要領に基づく教育活動が推進されているところです。

北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、本道の理科教育の充実のための取組として、学習指導要領に対応した理科研修講座を実施しているほか、平成24年度全国学力・学習状況調査理科において明らかになった授業づくりにおける課題の解決を図るために、小・中学校の若手教員や理科の学習指導等の充実に資する中核教員の育成を行うことを目的とした理科パワーアップ研修をはじめとする「理科RiSINGプロジェクト」を昨年度から進めております。また、研究連携校と共同で、「地域の自然の特性を生かした教材を効果的に活用した問題解決的・探究的な学習プログラム」を開発するとともに、その実践研究も進めているところです。

本研究紀要は、平成26年度に当センターの職員及び研究連携校の担当者が取り組んだ調査研究並びに当センター職員の支援の下、フリープラン研修受講者等が取り組んだ教材開発の成果をまとめたものです。本研究紀要が、各学校における教材研究や研修会、創意工夫を生かした理科の授業など、様々な場面で活用され、本道の理科教育の振興に広く役立てられることを願い、発刊に当たってのご挨拶と致します。

平成27年 3 月

北海道立教育研究所長

山田 寿雄

